

令和5年度 京都府立山城高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>①自主・自立の精神を高め、強い意志を持って自らの進路を切り拓き、より良き社会の実現に向けて行動する主体的人物を育成する。</p>	<p>①大半の生徒が基本的な生活習慣に基づき、自律的な行動を取ることができた。また、コロナ禍の中であっても、実施形態に工夫を凝らすことで文化祭等の生徒の主体性を高める取組においては、目的や育成すべき力をより意識して実践することができた。自発的・主体的・創造的に他者と共同して行動する力は、さらに伸長する余地がある。</p>	<p>①基本的な生活習慣や規律ある学校生活を確立させた上で、社会での自己肯定感を高める自発的・主体的活動や社会的視野を広める取組等を授業・学校行事等とおして推進する。推進にあたっては、目的や育成すべき力を教職員間で共有する。</p>
	<p>②進路ホームルームや講演会等により、生徒が自らの進路を考えることは一定の成果を収めている。ポートフォリオ等の活用により、自己の活動を捉え直し、社会と自らを結びつけ、生き方を展望していく取組には、さらに深化する余地がある。</p>	<p>②生徒が自分を社会の一員として俯瞰的に捉え、自立的・主体的な自らの生き方を展望することにより、高校生活や卒業後の自分の姿を描く機会の充実を図る。</p>
<p>②学習活動と部活動・学校行事等の双方に、生徒が高い目標を設定して主体的に励むことで、誇りと品格を持つ人間として成長を遂げる、質の高い文武両道を推進する。</p>	<p>③部活動加入率は高く、多くの生徒が文武両道を目指して活動し、文化祭等の学校行事にもエネルギーを持って取り組んでいる。部活動については、本校の部活動指導指針を作成し、質の高い文武両道をさらに推進する基盤を作った。</p>	<p>③部活動指導指針をもとに、質の高い文武両道の推進に向けて、教職員間での必要な情報や意識の共有を図るとともに、文武両面において、効果的な指導方法の研究及び環境の整備を進める。</p>
	<p>④家庭学習時間調査などとおして、自分の学習習慣を振り返る機会を持つなどして、部活動と学習の両立を図っていく取組を行い、多くの生徒が学習時間確保に努めた。一方で、計画的、自主的な学習に課題のある生徒がいることや、学習した内容を活用していく場面を設定することに課題がある。</p>	<p>④質の高い文武両道の推進に向けて、日々の授業を大切に生徒が高い目標を持ち、学習意欲を高め、自ら学ぶことにより、確かな学力を備え、希望進路の実現につなげるよう導く。また、グローバルネットワーク京都に係る事業等、指定研究や外部事業を効果的に活用する。</p>
<p>③教育のプロとして専門性を高めるとともに、授業方法を検証・改善し、質の高い授業を展開する。</p>	<p>⑤プロジェクターやタブレット、教育アプリを授業内で活用していく取組を行うなどして、効果的なICTの活用の研究を行い、授業効果を上げることもできた。また随時研修会を実施し、より効果的な活用法について教員間での共有を進めた。今後、すべての教員のICT活用指導力をさらに高めること、また、知識・技能の育成にとどまらない学習に向けての授業改善については、継続的な研究が必要である。</p>	<p>⑤学習指導要領の趣旨に基づき、知識・技術の習得に偏ることなく、思考力・判断力・表現力や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成することを重要な使命として捉える。また授業デザインチームを中心に、ICTの活用などの学習方法について、教科を越えて教員が情報を共有、協議する枠組みを推進するとともに、外部機関との連携・活用などにより研鑽を積み、授業改善に活かす。</p>
	<p>⑥働き方改革を意識して業務の質を高め、ICTを活用するなど効率化を図ってきた。さらなる効率化の方策を進めていく必要がある。</p>	<p>⑥業務の遂行にあたっては、持続可能性を担保できるよう働き方改革を推進するように努める。コロナ禍の中で得られた手法や業務の効率化を今後も活かしていく。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題
組織・運営	業務の的確な実施・検証	I C Tを活用した組織運営への移行	1	B	着実に進んでいるが、更なる充実が望まれる
教育課程	本年度学校経営の重点⑤	現行教育課程の円滑な実施と効果検証	2	B	観点別評価について継続した検証が必要
学習指導	同重点④⑤	生徒の主体的な学習を促すとともに、知識・技術のみならず、思考力・判断力・表現力や、協働しての課題解決力を高める授業や指導の実践	3	A	研究授業などを通じてI C T機器を活用した授業研究を進めている
		B Y O Dの実践をはじめ、I C T機器を活用した効果的な授業の研究・実践	4	A	
文理総合科教育	同重点④⑤	英語運用力・探究力の伸長と効果検証	5	A	文理総合科の取組は進められているが、情報共有が十分でない
		専門学科の特性を活かし、学年を越えての連携を深める取組を実施	6	A	
進路指導・キャリア教育	同重点①②④	キャリアパスポートの活用と、社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る指導の充実	7	B	講演会等進路について考える機会を持てた
特別活動	同重点①②③	部活動、学校行事、生徒会活動等における生徒の主体的な活動の促進	8	A	コロナ前と同様の活発な活動ができた
生徒指導	同重点①②	生活態度や挨拶等の指導による、生徒の社会性を高める指導の推進	9	B	自主的に挨拶できるように工夫が必要
国際理解教育	同重点②④	海外との交流をはじめとするグローバルな感覚を身につける指導の推進	10	A	姉妹校交流など国際交流が充実していた
外部連携	同重点②④	高大連携事業のさらなる充実と外部人材の積極的活用の推進	11	B	外部連携の内容について更なる精査が必要
人権教育 特別支援教育 聴覚障害教育	生徒の人権意識の向上、特別な支援の必要な聴覚障害教育等の継続的实施	困難な条件のある生徒の社会的自立を支援し、進路保障の取組を推進	12	A	聴覚障害を始めとする障害に対する理解と支援は進んでいる
		全校生徒への聴覚障害の理解促進や人権意識の向上を図る指導の実施	13	B	
健康・安心・安全	生徒の健康・安全の確保に向けて、指導・整備の更なる充実を図る	自転車事故防止に向けた指導の強化と任意保険加入の推奨	14	B	Teams による欠席連絡はある程度定着している
		欠席者の迅速な把握や各種検査・検診等の効果的な活用	15	A	

学校関係者 評価委員会 による評価	進学実績、文理総合科の教育実践などの成果が着実に向上しつつあるのは評価に値する。コロナ禍を乗り越えて、学校行事等が以前の形態に戻ることで、学校に活気をもたらしている。グローバルリーダーの育成を踏まえ、姉妹校交流等今後も積極的に取組を進めてほしい。
-------------------------	---

次年度に向けた 改善の方向性	本校のスクール・ミッション、スクールポリシーを踏まえ、課題とされている項目については時代に応じた柔軟な対応も考えながら改善を図る。
-------------------	---